

〇趣旨

県内で社会教育に関わる活動をしている（したい）人と、県内市町村社会教育担当者とが一堂に会し、生涯学習・社会教育に関する実践的知識について研修を行うとともに、社会教育人材のネットワークの構築を図る。

〇日程・内容

第1回研修 「『誰もが平等に楽しみながら学べる博物館』をめざして

日時 令和6年7月5日（金） 講師：くじらの博物館 副館長 中江 環 氏
 場所 太地町立くじらの博物館
 参加者 15名

地域の人に日常的に活用される“地域に開かれた博物館”をめざし、継続的に小中学校と連携した学習プログラムを実施してきたことで、博物館を放課後の“居場所”として訪れることもが増えたという実践紹介から、社会教育施設の新たな可能性について考えた。

演習では、参加者自身が行う事業において、人が集う“居場所”となり得ているかを振り返り、改善策等について協議を行った。

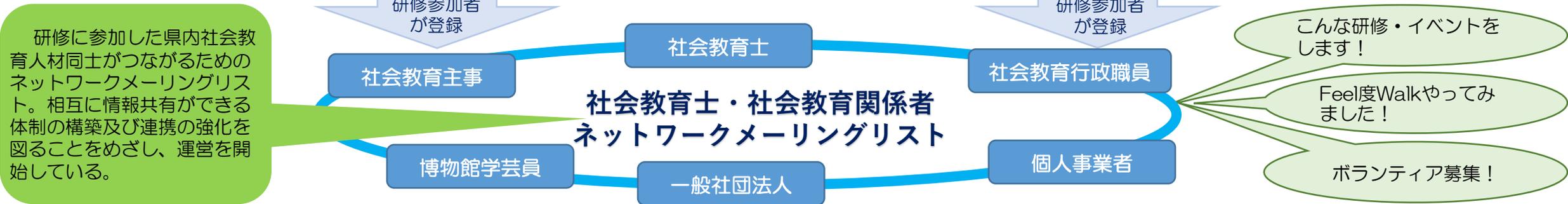


第2回研修 「大人の好奇心をひらく～Feel度Walkと知図が生み出す学び～」

日時 令和6年10月2日（水） 講師：一般社団法人みつかる+わかる代表理事 市川 力 氏
 場所 和歌山県民文化会館
 参加者 14名

市川氏が考案した、気づきの感度を高める手法である「Feel度Walk」を実際に行うことで、地域の課題やニーズに対して、探求する力が育まれることを参加者自身が実感するとともに、自分の事業とどう組み合わせられるかについて考えた。

また学びの場において、社会教育士（社会教育人材）がファシリテーターの役割とともに求められるジェネレーターとしての在り方について市川氏の動きから学んだ。



成果・様々な立場の社会教育人材のつながり

地域で活動している社会教育士をはじめ、博物館学芸員、子どもを対象とした社会教育イベントを行っている一般社団法人等、行政関係者以外からの参加もあり、これまでにない幅広いつながりづくりのきっかけとなった。

・情報共有体制の構築

「社会教育士・社会教育関係者ネットワークメーリングリスト」を作成し、研修参加者に登録してもらうことで、情報共有ができる体制を整えた。

課題・地域で活動する社会教育士の把握

行政機関にいる社会教育士については把握が可能であるが、市町村教育委員会でも社会教育士の把握をしているところはほとんど無いのが現状であった。今後は、県のSNSや県民だより等で広報しながら、県内の社会教育士をつかんでいく必要があると考える。

・研修における参加者のニーズのギャップ

既に地域で活動している社会教育士はそれぞれ専門分野をもっており、その分野に関する研修内容を希望する声があった。